「日本一古い　別府町宝蔵寺のオリーブ」

昨今、オリーブ油が高騰している記事が目につきます。オリーブは、日常生活の中でも料理に使われたり、化粧品、工業用など多用途に使用されています。

オリーブは、木犀科の常緑喬木で、小アジア地方が原産地です。現在は、気候上適している地中海沿岸で多く栽培されています。スペインが世界の生産の約 30%を占めます。歴史的には、B.C.700 年頃、古代ギリシアが、オリーブの栽培によって国力を蓄えたといわれています。

日本でオリーブというと、小豆島のイメージが強いと思います。実際、国内生産量の約 95%は香川県、岡山県で占められています。

しかし、明治政府農商務省がフランスからオリーブの苗木を輸入したのが「神戸オリーブ園」です。その 7 年後の明治 19(1889)年、加古川の多木化学創業者多木久次郎は「神戸オリーブ園」から苗木を貰い受け、これを別府町の宝蔵寺境内に栽植したのが、現在のオリーブの木です。

ちなみに兵庫県でオリーブが生産されているのは、淡路島のオリーブ園です。そのオリーブは、宝蔵寺のオリーブを原木として芽挿(めさ)ししたか、果実から実生(みしょう)したものです。

最後に、国連旗のマークは、地球を平和の象徴としてオリーブで囲んでいます。そのことは、オリーブが人類の希望と繁栄・平和のシンボルとされていることを物語っています。まさか、そのオリーブの日本での伝播のもとになっているのが、加古川であるとはびっくりですね。

ぶらり加古川第 31 号

平成 28 年 7 月